



5.採用薬品数

患者の安全を守る視点から、危ない薬、不必要な薬を見抜き、適切に選択して安全に使用する為の指標です。薬剤の定期評価を行う事によって、採用薬品数を適正に抑え、安全で円滑な品質管理に貢献します。また、副作用報告を元に危険な薬品を分別し、薬剤価格から効果に見合った適正価格の薬品を分別します。

みどり病院では、半期毎の岐阜民医連県連薬事委員会で、疾患別・薬効群別に採用薬頻数の見直しを行っており、結果 2011 年からの 4 年間で 330 品目の減少となっております。

また、既存の採用薬品の精査を行いながら、新規採用薬の選定も行っており、こちらは 2012 年（1. 5）から 2014（2. 5）と増加傾向にあります。

